

九州大学学研都市の構築に向けて

市長短信
H28年9月28日

1 現状と課題

■伊都キャンパスへの統合移転等の進展に伴う影響

- 伊都キャンパスの移転統合（平成30年度完了）
 - ・教職員を含め、1万8700人が伊都キャンパスに通うことになる。
- 南門の開通（平成28年10月3日：暫定オープン）
 - ・泊カツラギ地区を中心に周辺地区全体のまちづくりが促進される。
- 泊研究団地が完売
 - ・新たな受け皿づくりが必要。

■これまでの市の対応

- 連携協力協定に基づき、毎年100件以上の連携交流事業を実施。
- その他、学生や教職員に向けた定住促進策、研究所への支援、関連企業の誘致などを進めている。

⇒しかし、まだ「学術研究都市」の構築が進んでいるとはいえない。

2 「100年の大計」となるまちづくり

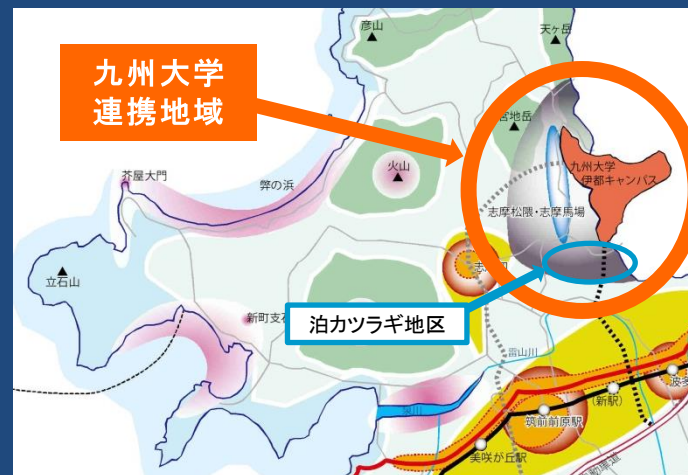
■学術研究都市づくりに向けて

- 教職員向け住宅、研究者の交流施設や研究施設など、九州大学関連機能の積極的な誘導が必要
- 学術研究都市の中心としてふさわしい街とするためには、次なる新たな展開が必要

■100年の大計となるまちづくり構想をめざして

- 九州大学との「組織対応型共同研究」で大学周辺地区全体のまちづくり構想を検討中（九州大学キャンパス計画室 坂井 猛 教授）
- 地元住民でまちづくりを進めている組織「前原北部まちづくり推進協議会」と連携しながら、全体の構想を策定し、整備を進めたい。

【まちづくりワークショップの開催】（10/23 13:30～東風公民館）
組織対応型共同研究の一環として「前原北部まちづくり推進協議会」をはじめ、市民の皆様と、将来のまちづくりについて意見交換を行う。



【九州大学連携地域】

市の長期総合計画では、九州大学周辺地区を「九州大学連携地域」と定め、関連企業の立地や、学生・教職員の居住のための地域として整備することとしている。

【前原北部まちづくり推進協議会】

平成15年度に、前原北部の5自治会（泊一、泊二、泊三、油比、新田）で発足した協議会。

「泊カツラギ地区」を「大学門前町」とすることをめざし、泊カツラギ地区の地区計画や、泊カツラギ南側の大塚地区まちづくりの調査検討を行う。